

South Wind

サウスウィンド Mar. 2021 Vol.98

特集

第15回世界とトモダチみやざき国際ミニフェスタ



Contents/ 目次

第15回世界とトモダチみやざき国際ミニフェスタ… 2・3

第15回外国人住民による日本語スピーチコンテスト…4

Hear! Here Voices

～バスカーラン アリワラガンさん(インド出身)～ …5

JICA ぼーぺんにゃん……………6

宮崎県国際交流協会ニュース……………7

INFORMATION ……………8

世界とトモダチみやざき国際ミニフェスタに来られたご家族です。ミニ獅子舞を操ったり、ベトナムの帽子をかぶったり、韓国の楽器をたたいたりしながら、大いに楽しんでいただきました。
★フェスタの様子は、p2, 3で詳しく紹介しています。



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp/>

世界とトモダチ みやざき国際ミニフェスタを 令和2年11月28日(土)開催しました!

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、規模を小さくした国際ミニフェスタとなりました。会場への人数制限をして開催した「国際理解ミニ講座(ベトナム編、中国編、デンマーク編)」、「写真で見る宮崎県国際交流協会の歩み」「世界の民族衣装の展示」「宮崎ブラジル親善協会」そして共催いただいた「JICA」の各ブースとも、趣向を凝らして来場者の方々をお迎えし、参加いただいた方々も、満足していただけたと思います。また、11月18日から開催していたアートフェスティバル「外国人が見た宮崎」の展示にも多数お出でいただき、それぞれの作品を楽しんでいただきました。ありがとうございました。



国際理解ミニ講座

ベトナム編



講師にチャン ティ トゥアンさん、ド ティ ウット ハウさんをお迎えし、美しい映像を見ながら、ベトナムの歴史、文化そしてメインテーマであるベトナムのファッションについて説明していただきました。お二人が着ていたベトナムの民族衣装アオザイもとても印象的でした。

中国編



講師のヨウコウリョウさんは、中国伝統の楽器二胡の名手でもあります。美しい音色を響かせながら、私たちのなじみのある曲や、参加者のリクエスト曲を演奏していただきました。また、大変珍しい楽器の映像も見せていただき、心和む、楽しい講演でした。

デンマーク編



講師の厚澤アンネグレーテさんには、豊富な写真や映像を用意していただき、デンマークの地理や文化、テーマである「デンマークの食べ物」について、たくさん紹介していただきました。美味しそうな食べ物の映像に、思わず引き込まれてしまいました。

写真で見る宮崎県国際交流協会の歩み

宮崎県国際交流協会が設立されて30年が経ちました。その30年に渡る宮崎県国際交流協会の歩みを、写真で振り返りました。全ての写真を紹介することはできませんでしたが、これまで協会が主催したさまざまなイベントや講座に参加していただいた方々に感謝を込めて展示しました。写真を見ながら、来場者の方々の中に、当時を懐かしく思い出していただけた方がおられましたら、幸いです。



宮崎ブラジル親善協会・世界の民族衣装

宮崎ブラジル親善協会ブース



宮崎からブラジルをはじめ南米に移住した人々の歴史を紹介した宮崎ブラジル親善協会のコーナーには、ブラジル移住者の方々の今までの軌跡を辿る写真や資料が展示されました。

世界の民族衣装



世界の民族衣装のコーナーでは、シンガポール、ベトナム、チェコ、南アフリカ、韓国の衣装の他に、操り人形、楽器等の雑貨も展示し、大人から子供まで直接手で触れて楽しんでいただきました。

JICA海外協力隊ブース

JICA 海外協力隊ブースでは、SDGs パネル展示、清武中展示物、JICA の取り組み、アフリカ布のくるみボタン製作、アフリカアートぬり絵、パオバブツリーの展示、協力隊ナビ(相談会)などのイベントを行いました。



第15回「外国人が見た宮崎」アート作品展

18 国・地域の 38 名の宮崎在住の外国人や外国にルーツのある方々から、写真 20 点、絵画 9 点、書道 20 点、手工芸・その他 6 点、合計 55 点の出品がありました。いろいろな視点から宮崎が表現されていて、どれも素晴らしい作品ばかりでした。鑑賞された皆様の投票により決定した今年度の最優秀作品と受賞者は次のとおりです。皆様からいただいたコメントとともに紹介します。

写真の部



「延岡の春」
Spring in Nobeoka

ブリス カリナさん
(ドイツ)

絵画の部



「遠景」
Perspective

ニカ ユーさん
(ニュージーランド)

書道の部



「忘年 2020」
Forget 2020

マックスウェル アンドレさん
(アイルランド)



手工芸・その他の部



「田元神社でかくれんぼ」
Hide and seek at Tamoto Shrine

村上仁さん
(日本)

来場者のコメントです

桜とメジロのバランスがよい。美しい。静かな時を感じる。

書のトメ、ハネがしっかりできている。

細かな粘土細工が、素晴らしいです。

外国人住民による 日本語スピーチコンテスト



去る十一月二十一日(土)に、「外国人住民による日本語スピーチコンテスト」を開催しました。今回は、高校生・専門学校の部五名、大学・一般の部四名、計九名(七か国)の宮崎在住の外国人が出席し、「私と日本」をテーマに様々な角度からそれぞれの想いをスピーチで語ってくれました。各部門の受賞者のみなさんおめでとうございます。そして、素晴らしいスピーチを本当にありがとうございました!

皆さんは私のスピーチのタイトルを聞いて、私をハーフかと思ったのではないだろうか。実は私にはネパールに血の繋がっていない日本人のママがいます。皆さんは、人生で一番尊敬している人、またはロールモデルはいますか。私のロールモデルは私の日本人のママです。ママと初めて出会ったのは私が五歳の時です。父を失った後、幸運にもママがボランティアで運営しているTCPという施設に出会いました。そこはチベットの文化、伝統や言葉などを守るための児童養護施設です。

私はTCPで私の他に十七人の子供たちと育ちました。私たちは毎日お腹いっぱいご飯を食べて、毎日楽しく学校に行けて本当にとても幸せでした。小さい頃は、このようなことが当たり前だと思って、よく喧嘩をしたり悪戯をしたりしてたくさん問題をこしらえて、ママを悲しませた時もありました。今では私たちが当たり前のようにしていたことが当たり前だとは思いません。世界にはまだ私たちがのように毎日三食を食べることができない子供達や、毎日学校に行くことができない子供



私の日本のママ
イシ パルドウン ラマさん
(ネパール)

達が多多くいます。私はある日ママにこう聞きました。「ママ、ママはなぜ私たちのようなチベット人の子供達のために頑張ろうと思ったの。」するとママはこう答えました。「それはCompassion、慈悲があるからだ。」ママは若い頃からチベットに滞在しチベットの文化に惹かれお寺の再建の支援や医療、教育の支援をしていました。その後はネパールに移住し、ネパールへ亡命しているチベット人のためにチベット文化研修を目的とした支援活動をしています。

ママは日本人で、ネパールで自分の息子の子育てをしながらチベット人の子供たちの支援をしていました。これは想像以上に大変で、誰にも真似できないことで私はとても尊敬しています。ママは自分のためよりも誰かのためにという気持ちが強く溢れています。ママは決して諦めないようにと私を奮い立たせ、私が心に決めたことは何でも出来ると思わせてくれました。その結果私はよりチャレンジ精神に溢れ、人生にできる限りのことを学び、達成したいと思うようになりました。それで私は日本へ留学することを決断し、今たくさんさんのことに積極的に取り組んでいます。私が今日本で勉強することができるのは、全てママ、そして長年私をサポートしてくれている宮崎のパバとママのおかげです。宮崎のパバとママと一緒に住み、そこから高校に通っていますが、二人とも会社を運営していて忙しい中、私の食事や日常生活のケアをしたり色々なところに連れて行ってくださいます。私をサポートしてくださる方々に感謝し、これからも日本での勉強を頑張っていきたいと思えます。

～高校・専門学校の部～

～大学・一般の部～



曹 念々さん
(中国)

「忘れたい夏休み」



エミリー ハメットさん
(アメリカ)

「元気な車」



トゥリシャ マリー ルーショさん
(フィリピン)

「ひだまりのひまわり」



ティア メイリアニさん
(インドネシア)

「日本の素晴らしさ」



ファウステイン マー プラノンさん
(フィリピン)

「人生行路：千里の道も一歩から」



李 珠熙さん
(韓国)

「私の物語の始まりを聞いてみませんか。」



徐 愛麗さん
(中国)

「私と日本」



パスカーラン アリワラガンさん
(インド)

「私と日本」

Hear! Here Voices

バスカーラン アリワラガンさん

令和2年度外国人住民による日本語スピーチコンテスト
大学・一般の部 最優秀賞



【プロフィール】

インド南部のタミルナードゥ州チェンナイ出身。宮崎情報ビジネス医療専門学校で日本語を学んだ後、株式会社教育情報サービスに入社。ITエンジニアとして教育関係のソフト開発を行っている。

「外国人住民による日本語スピーチコンテスト 大学・一般の部」最優秀賞おめでとうございます。スピーチをした感想をお聞かせください。またスピーチで一番伝えたかったことは何ですか？

とても緊張しました。緊張するとわかっていたのでコンテストに出ることは周りには話していませんでした。後で結果を話したらみんな喜んでくれました。



テーマが「わたしと日本」だったので、始めはインドと日本の違いについて母国語で原稿をまとめましたが、日本語に直してみるとあまり面白くないと思いました。そこで日本での経験を通して自分の世界の見え方がどのように変わったかということ伝えたいと思い、内容を変えました。(バスカーランさんの「世界の見え方」の変化については下の表をご覧ください。)

スピーチコンテストに出場しようと思った理由は？

同僚からスピーチコンテストの話聞き、最近日本語の勉強をしていなかったためモチベーションを上げるために出場しようと思いました。

日本語はどのようにして勉強していますか？

スピーチコンテストもそうですが、日本語能力試験など目標を定めてモチベーションを保つようにしています。またドラマやニュース、YouTubeなどすべて日本語の環境にして情報を得ています。



宮崎に来たきっかけは？

子どものころから日本に興味があり、日本製品は信頼できると思っていました。大学でコンピュータアプリケーションについて学び、インドの企業に就職しましたが、やはり日本語を学びたいと思うようになり、東京や宮崎に住む友人に相談しました。宮崎の友人から宮崎は住みやすいと聞き、その友人は日本語がとても上手だったこともあり、宮崎に留学することに決めました。

現在のお仕事について教えてください。

誰でも簡単にオンラインで勉強できるシステム(eラーニングシステム)の開発をしています。ソフトを使って先生が授業のコンテンツの動画を作って、受講者がLMS(学習管理システム)で勉強できるシステムです。



宮崎での生活はいかがですか？

物価が安くて住みやすいです。自然が豊かでインドのふるさとに似ています。職場の同僚はみんなやさしくて、仕事や生活のことでいろいろ助けてくれます。みんなと一緒に仕事をするのが楽しいです。

将来の夢や目標を教えてください。

日本語をもっと勉強し、IT技術やビジネスの知識を深め、インドと日本の懸け橋となるような仕事をしたいです。

<バスカーランさんの「世界の見え方」の変化(スピーチより)>

日本に来る前	日本に来てから
リスクは取りたくない	知らないことによる恐怖は持っているだけ損→怖いものが減る
世界は平等ではない	根底にあるものはみな同じ
お金がないと幸せにならない	自身が幸せだと思えばそれが幸せ→お金に依存しない幸せを見つける
周りとは関係なく自分が幸せならよい	周りに関係しているから幸せ→いつも思いやりと敬意を示す
自分ではできないと思い、ネガティブに考える	他の人が信じる前に自分が自分を信じるのが大切

※スピーチコンテストの様子は(公財)宮崎県国際交流協会 Facebook で見るすることができます。

ぼーペンにゃん Vol.8



JICAデスク宮崎 国際協力推進員
田代 芽衣
 Tashiro Mei
 (元青年海外協力隊 看護師としてラオスで活動)

☎: 0985-32-8457

✉: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

URL: <https://www.jica.go.jp/Kyushu/>



ぼーペンにゃん

「ぼーペンにゃん」は、^{ジャイカ}JICA や国際協力について様々なことを紹介していくコーナーです。
 (「ぼーペンニャン」は、ラオス語で「大丈夫」「気にしない」「なんとかなるさ」という意味)



「ぼーペンニャン vol.8 ~コロナ禍において私たちがいま出来ること~」

皆さん、こんにちは！ JICA デスク宮崎・国際協力推進員の田代です。

2021年の新春を迎えましたが、昨年来より世界規模にて蔓延する新型コロナウイルス感染拡大の影響にて生活や全ての世界が一変してしまいました。

JICAにおきましても、世界中に派遣されている JICA 海外協力隊員約 2,200 名、JICA 関係者を含めると約 6,000 名が日本への一時退避帰国を余儀なくされました。

未曾有の事態にどのように対応していいかわからず、私自身も見えないウイルスの脅威に不安を感じながら不安定な毎日を過ごしてきました。

記憶にも新しい出来事ですが、一時的にマスクや消毒薬が不足し、入手困難になる時期がありました。今まで私が日本の医療現場で働く中では、必要とされる物品は常備されていることが当たり前で、「ない」もしくは「なくなる」ということを経験したことがなかった為、今回そのような状況を経験したことで、「これは、本当に大変な事態になってしまっているのかもしれない。」という恐怖と不安感に襲われました。

しかし、そんな時に青年海外協力隊時代のラオスでの医療現場をふと思い出しました。ラオスの医療現場では物品が揃っていないことが「あたりまえ」だったので、点滴の空きボトルを利用して針を捨てる容器にしたり、水受けやコップとして利用していました。点滴を吊るすための棒は、竹の竿を使用していました。そして、ある時は患者さんを運ぶ乗り物を作りたいと同僚が言い出し、プラスチックの椅子とバイクの車輪を組み合わせて三輪車にも似た「車いす」を作ってしまったこともありました。

無いならないで、何でも作ってしまう。何かが故障してしまったら自力で修理してしまう。ラオスの同僚たちには自然と「強く生きる力や逞しさ」が備わっているように感じたことを思い出します。「代わりとなるもの」や「本物のそれに近いもの」を生み出す力は生きていく上で非常に大切で、必要とされる能力であると実感した出来事でした。

当たり前のことかもしれませんが、このような不安定で先の見えないような状況のなかでも普段通りのルーティンを実行することや、小さな目標を定めて生活をしていくことが大切なのではないかと考えるようになりました。ラオスの同僚から教わったどんな環境や状況においても「どうにかなるさ(ぼーペンニャン)精神」で乗り切っていけないとな、と勝手に励まされているように感じています。

現在のコロナ禍においても、私たちの生きる地域社会や多文化共生社会のなかで出来る一人一人の役割は必ずありますし、できることを一歩ずつしていく必要があると感じています。

「自分にできる国際協力って何だろう？」そう思い始めることであなたの国際協力への第一歩は始まっているかもしれません。皆さんも一緒に考えてみませんか？気になった方はいつでもお気軽にお問合せ下さい。JICA に関すること、国際協力に関すること一緒にお話ししましょう♪



点滴の空きボトルを利用した針捨てBOX



協力隊時代のラオス人同僚看護師

「ある国に宮崎人がおったげな…」miten
 各国で暮らした経験のある宮崎人が旅行では知ることのできないリアルな体験記をつづります。毎月続々更新中！
 バックナンバーも是非ご覧ください。 [WEB http://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/](http://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/)



JICA の事業について質問などありましたら、(公財) 宮崎県国際交流協会内 JICA デスク宮崎までご連絡ください。
 TEL.0985-32-8457 E-mail: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

宮崎県国際交流協会 ニュース

● 次の講座を開催しました。 ●

日本伝統文化体験「茶道」in古民家

7月25日(土)に、裏千家茶道教室を開かれている小牧久芳氏を招いて、「茶道」体験講座を実施しました。宮崎県総合博物館「民家園」の静かなたたずまいの中、茶道の成り立ちや心得の説明を聞き、お点前を拝見した後、作法にのっとりお茶をいただきました。参加した外国人の中には甘いお菓子の後のお茶の苦みに少し驚いた方もいましたが、みなさん「茶道」の奥深さを感じたようです。



ワーキングホリデー説明会

ウイングジャパン留学センターの浜砂順一郎氏を講師に迎え、8月1日(土)にワーキングホリデー説明会を開催しました。新型コロナウイルス感染の不安と移動が制限されていて渡航を考える方が減っているためか、参加者は例年になく少なかったですが、概要説明や手続き、さらに経験者からの情報は参加者により実感として伝わりました。



外国人支援のための防災講座

8月7日(金)、講師に多文化共生ネット・九州の高柳香代氏を迎えて自治体の多文化共生担当者、危機管理、消防、警察、福祉関係者を対象に、災害時の外国人支援の留意点や情報提供について講話をしていただきました。後半は、外国人住民お二人を交え、災害時の情報発信について意見交換が行われました。災害時の情報発信や日頃の関係づくりの大切さに加え、在留資格などの背景を理解して支援を行うことの大切さなど再確認しました。



外国人のための防災セミナー

10月24日(土)に開催し、ベトナムや中国など合計5か国、20名の外国人が参加しました。「災害とその対策」について話を聞いた後、グループに分かれ、「防災アプリ」「非常用持ち出し袋・ハザードマップ」「煙体験」「起震車体験」の各ブースを巡り体験しました。母国ではあまり起こらない災害が発生したとき、どのように対処すべきかなどを再確認できたようです。皆さん、真剣に耳を傾け、有意義な時間となりました。



地域日本語教室

地域に住む外国人と日本人が交流を通して日本語やお互いの文化を学び合う地域日本語教室を開催し、災害、地域のイベント、日本文化について学び、日本語を使ってコミュニケーションをとりました。



県民向け国際理解講座

12月6日(日)イオンモール宮崎にて、
イギリス：イギリス発祥のサッカー体験
(講師 県国際交流員 グレアム マーシュ氏)
カナダ：カナダに関するクイズに答えよう
(講師 大学教員 カタリーナ モーク氏
大学教員 ステファニー リム氏)
ドイツ：ドイツのクリスマスの過ごし方
(講師 幼稚園園長 サシャ クリンガー氏)
イタリア：イタリアにふれよう
(講師 イタリア語講師 宇都 はるこ氏)
というテーマで国際理解講座を開催しました。
各国に対する理解を深めるよい機会となりました。



☆上記以外の開催講座☆

- ・日本語れんしゅう会(通年開催) ・ふれあいチャット 英語 韓国語 中国語
- ・日本語学習支援者養成講座(宮崎市・日南市・日向市・三股町) ・日本語講座初級1・2
- ・外国人住民支援講座 令和3年1月15日 ・日本語学習支援者向けオンラインセミナー 令和3年2月6日
- ・外国人災害サポートボランティア養成講座 令和3年2月13日 ・外国人のための防災講座 令和3年2月20日



ちよっぴといき 「台湾コーヒーのお話」

スタッフ 上坂 明日音

ちよっぴといき、、、という時のお供に私は「コーヒー」をよく飲みます。コーヒーといえばみなさんどの国を連想するでしょうか。ブラジル、コロンビア、エチオピア・・・中南米やアフリカ産のコーヒーが有名ですが、ここでは学生時代の留学先であった台湾のコーヒーについて少しお話ししたいと思います。

私はコーヒーが好きなことから台湾への留学中や旅行で訪れた際、現地生産の台湾コーヒーを求めて農園へ足を運んだりコーヒー豆専門店へ立ち寄ることがありました。ちなみに台湾生産のコーヒー豆200gあたりおいくらだと思いますか？なんと、日本円でおよそ3,000円から4,000円です。その理由としてコーヒーが収穫できる標高が高く、適度に雨が降る地域が少ないことから生産地が限定され、希少価値となることが挙げられます。

台湾コーヒーの歴史はイギリス人が持ち込んだ、17世紀のオランダ統治時代に持ち込まれた等いくつか説があります。

日本統治時代の頃には試験栽培が成功すると、国策と

してコーヒーがたくさんつくられるようになります。当時つくられたものの中には天皇への献上品とされていたものもありました。その後、戦後にブラジルやコロンビア等の国家による大規模生産かつ機械化による安価なコーヒーの進出により生産量が減少していくのですが、2000年前後からカフェ/コーヒーのブームが台湾でも起こるようになり、コーヒー専門店なども増えてくるに従って、再び台湾コーヒーが見直されるようになりました。現在では、かつて放置されていた茶畑として使用されていた畑などで地域農業の振興や特産物の開発として、コーヒーを栽培するエリアが増えているようです。有名なお店を挙げると台北の迪化街にある「森高砂珈琲館」。ここでは台湾各地にある農園から仕入れたコーヒーを飲むことができます。

台湾といえば台湾茶も有名ですが、現地へ行かれる際には是非とも台湾コーヒーの味も堪能してみてください。



INFORMATION

みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは県内在住の外国人のみなさんを対象に11月から「オンライン(Zoom)相談」を開始しました。宮崎での生活で困ったこと、知りたいことを遠方にお住まいの方でも相談できます。

【問合せ】みやざき外国人サポートセンター
TEL:0985-41-5901 FAX:0985-41-5902
E-mail:support@mif.or.jp
URL:https://support.mif.or.jp



Website



Facebook



Instagram

外国人のための日本語れんしゅう会

日本人ボランティアと日本語の学習をします。通年開講しており、いつでも参加することができます。

【対象】宮崎県に住む外国人
【日時】毎週水曜日・金曜日 10:30~11:30
【場所】カリーノ宮崎地下1階
【受講料】無料



日本語ボランティアの紹介

宮崎県に住む外国人で、日本語講座やれんしゅう会に参加できない方に、日本語ボランティアを紹介します。学習場所や時間、内容は当人同士で決めます。当協会の国際プラザもご利用できます。

協会HPの中国語版と韓国語版がリニューアルしました。中国語・韓国語を学習中の方もぜひご覧ください。

◆ 賛助会員 入会のご案内 ◆

会費：個人会員 年間1口 2,000円 団体会員 年間1口 10,000円

特典：協会発行の定期刊行物「プラザニュース(日・英・中・韓)」、「SOUTH WIND」等の提供、協会開催事業への先行案内・優先参加、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind

サウスウインド
Mar.2021 Vol.98



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第98号 2021年3月発行
〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512
● URL <https://www.mif.or.jp/> ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしています。また、国際交流に関する話題や体験談、意見なども協会にお寄せください。本誌に対する要望もお待ちしております。



開館時間：火～土 / 10:00～19:00
休館日：日・月・祝日・12月29日～1月3日